

新基地建設反対名護共同センターニュース

コロナ感染症が再拡大中！違法工事は中止を



ゲート前で県民 10 人ほどが「違法工事をやめろ！」の旗掲げ監視。機動隊と接触しないように自ら移動しました。(26日、午前9時)

辺野古新基地建設現場では、7月20日(火)から25日(日)までは台風6号の影響と連休のため工事はすべて休止となりました。しかし、26日朝9時には工事車両が50台ほど基地内に入り込みました。ゲート前で県民10数人が感染症対策をとり、監視活動を行い基地に入る車両の種類や積載物をチェックしました。ゲート付近では民間警備員約50人と機動隊員約10人が警備に当たっていました。

沖縄県統一連の瀬長和男事務局長は「監視する県民は10人ほどののにその何倍もの過剰警備は許せない。コロナ感染症が再び拡大中だ。政府は違法工事を中止し、コロナ対策に全力をあげるべきです」と話していました。なお27日朝現在、台船は避難先に留まっており、辺野古の埋立て工事と安和港、塩川港からの運搬船での赤土搬出作業は再開していません。

監視する県民の何倍もの警備人数許せない

岸本洋平氏に出馬要請へ

へり基地反対協に加盟する各団体は、来年1月の名護市長選挙に向けて岸本洋平名護市議(写真=48歳)に出馬を要請することになりました。

日時:8月9日(月)
午後6時~

場所:稲嶺進後援会事務所
名護市字大南 1-10-18 ☎0980-43-0211



へり基地反対協幹事で二見以北住民の会の浦島悦子さんがこのほど絵本を出版されました。紹介します。



浦島悦子著「ジュゴンの帰る海」

浦島悦子(著/文) なかちしずか(イラスト)
発行:ハモニカブックス 価格 1,500円+税
申込先:浦島さんへ TEL 090-7586-3348

●絵本の主人公・少女マカトとジュゴンとの物語は、人間の起こした戦争に翻弄される「沖縄」の歴史とともに描かれてゆく。辺野古の海を臨む名護市在住の作者コンビが届けてくれる、命についてのメッセージです。

ワクチン不足の解消を！ うりずんの会が政府へ要請

沖縄県選出の野党国会議員で構成する「うりずんの会」は14日、新型コロナウイルス感染症対策のワクチンの量が不足している状況を速やかに解消することをオンラインで要請しました。赤嶺衆院議員は「ワクチン接種とPCR検査を大規模にすること、医療機関や事業者、生活困窮者への支援を政府が責任をもって行うべきだ」と強調しました。



県庁で記者会見を行う左から-ヤラ朝博・赤嶺政賢両衆院議員、伊波洋一・高良鉄美両参院議員

不屈館

8月の企画 ②

藤原憲のメディア講座③

15日(日)午後2時~4時

-後日、DVD販売予定-

場所:不屈館(那覇市若狭2-21-5)



講師 藤原 健氏

藤原健 1950年、岡山県生まれ。毎日新聞大阪本社編集局長などを経て、2016年から琉球新報客員編集委員。琉球新報に「おきなわ巡考記」を執筆。那覇市在住。著書に沖縄戦の記憶継承がテーマの『魂の新聞』、『終わりになきいくさ』など。

演題「8・15(終戦記念日)と新聞」

~終わらぬ戦争をめぐる~

※コロナ対策のため、定員40名の予約制と致します。

申し込み先▶不屈館:TEL 098-943-8374

不屈館入館料が必要。<大人 500円、高校・大学生 300円、中学以下・障がい者無料>